

エコアクション21

2019年度 環境経営レポート

対象期間 2019年4月1日～2020年3月31日

発行日 2020年4月27日
改訂日 2020年8月17日

株式会社 サン電材社

株式会社 **サン電材社**



TOKAI RIKI GROUP

株式会社サン電材社 2019年度環境経営レポート 目次

1.環境経営方針	2
2.事業概要	3
3.環境管理実施体制		
① 組織図	4
② 役割と責任、権限	5
4.環境と負荷 目標と実績		
① 主な環境負荷の実績	6
② 2019年度目標実績対比 および達成状況	7
③ 2019年度 活動評価	8
④ 2020年度目標（単年度）		
1) 全社目標	9
2) 本社目標 および 3) 音羽事務所 目標	10
5.環境経営活動計画	11
6.中期目標	12
7.環境改善事例	13
8.法規・法令順守状況	14
9.代表者による全体評価と見直し	15

株式会社サン電材社 環境経営方針

- 1.社会の一員として、環境への取り組みを全社一丸となり進めます。
- 2.法・地域や顧客との約束を守り、さらに自主目標を定め、
環境汚染の未然防止を進めます
- 3.環境改善活動および社会貢献活動を全社的・継続的に実施展開します。
- 4.顧客要望対応を充実させ、省エネ・環境配慮の高いものづくりを推進します

1.環境目標の設定と継続的改善

当社の環境負荷削減のため、環境目標を設定し、目標達成のため全社で取り組みます。また、継続的な改善を図り、環境にやさしい企業を目指します。

2.産業廃棄物の削減とリサイクルの推進

産業廃棄物の分別の推進やリサイクル意識の向上を図ることでリサイクル率を高め、廃棄物総量の削減を推進します。

3.CO2排出量の削減と水資源の節約

空調や照明などの効率的な運用により電力使用量の削減および、社用車のハイブリッド車輛導入やエコ運転の推進等を通じ、CO2排出量削減を推進します。また、水道等の水量適正化や連続使用の抑制、節水意識の向上をはかり水資源の利用節減を推進します。

4.顧客要望対応の充実による省エネ・環境配慮型製品の製造推進

お客様からの要望を製品に十分に反映させることで、省エネ・環境配慮型の製品を製造・販売することを推進します。

5.法令遵守

環境関連法令、条例、規制を遵守し、社会の一員としての責務を果たします。

6.近隣および社会との共存共栄

環境教育や啓蒙活動などの環境活動を通じ、全社員の環境意識の向上に努め近隣地域ならびに社会との良好な関係を育み、共存共栄に努めます。

制定： 2016年 4月 1日

改定： 2018年 4月 1日

株式会社 サン電材社

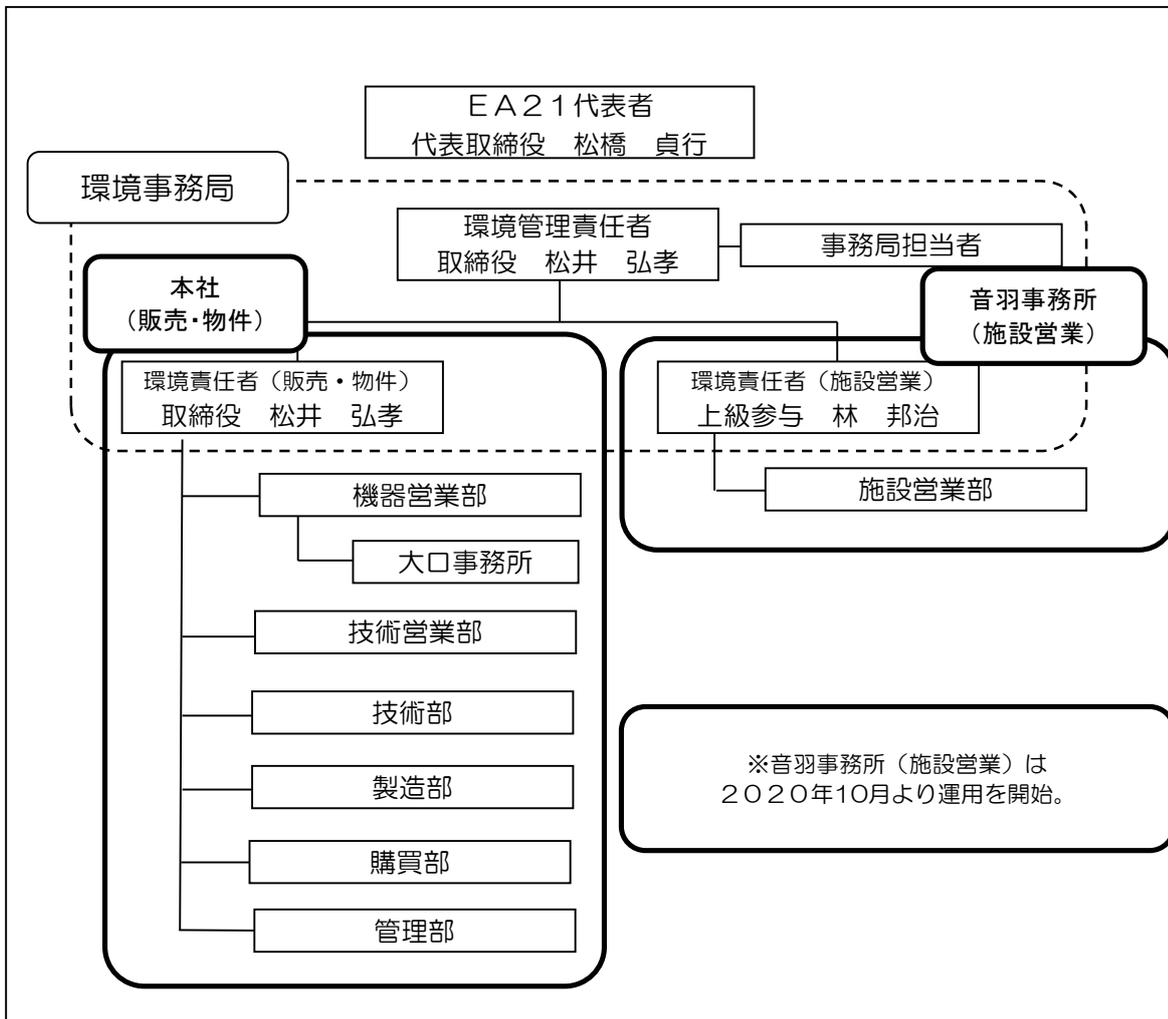
代表取締役 松橋 貞行

事業概要

事業者	株式会社 サン電材社
本社所在地	愛知県豊橋市西幸町字浜池331番地7
代表者	代表取締役 松橋 貞行
事業内容	産業用機械（自動機・検査機）及び 試験機の設計・製造・販売・メンテナンス 電機・機械部品の販売 建設工事の営業および施工管理（音羽事務所）
事業拠点	本社工場・事務所 〒441-8113 愛知県豊橋市西幸町字浜池331番地7 TEL：0532-38-5631（代表） FAX：0532-38-5862 事業所延べ面積：5580㎡ 建物面積 4011㎡
	※音羽事務所 〒441-0295 愛知県豊川市赤坂町平山1番地 TEL：080-6978-1943（林） FAX：0533-88-3098 事務所延べ面積：30㎡
事業の規模	事業期間 第47期（2019年4月～2020年3月） 売上高：7,130百万円（内 製作物：4,864百万円）
従業員数	105名（2020年3月31日時点） 内：本社 96名（正社員75名 パート・嘱託21名） 音羽事務所9名（正社員9名）
環境管理責任者	取締役 管理部長 松井 弘孝 TEL：0532-38-5633 FAX：0532-38-5682 E-mail：h.matsui@sandenzai.co.jp
EA21推進事務局 （連絡先担当者）	管理部 室川 研児 TEL：0532-38-5633 FAX：0532-38-5682 E-mail：k.murokawa@sandenzai.co.jp
対象範囲 （承認・登録範囲）	本社工場・事務所 ※音羽事務所（施設営業）は2020年10月より運用。 ※音羽事務所では建設業営業・進捗管理を行っている為 建設業（一般建築・土木業）は対象範囲に含めない。

3.環境管理実施体制

① 組織図



作成： 2018年4月1日

3.環境管理実施体制

② 役割と責任、権限

	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等の準備 環境管理責任者を任命 環境目標・環境活動計画書を承認 環境方針の策定 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめを承認 環境目標、環境活動計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境方針の全従業員への周知 環境活動レポートの確認 審査結果及び是正措置等の代表者への報告
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、E A 2 1 の推進 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標、環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開 環境重要設備の手順書作成及び運用管理 特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練の実施、記録の作成
環境責任者	<ul style="list-style-type: none"> 拠点における環境経営システムの実施 拠点における環境方針の周知 拠点の従業員に対する教育訓練の実施 拠点に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 拠点の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4.環境負荷 目標と実績

環境への負荷		単位	2017年度	2018年度	2019年度	
① 二酸化炭素 排出原単位	電力消費によるもの	kg-CO ₂ ÷千万円	351.2	242.2	219.7	
	化石燃料消費に よるもの		灯油	1.0	0.2	0.0
			ガソリン	207.7	175.3	146.3
	排出合計の原単位		559.9	417.7	366.0	
基準となる売上高		千万円	597.2	678.5	713.0	

<参考> 二酸化炭素排出量 (排出量の単位 …… kg-CO₂)

項目	排出計数	2017年度	2018年度	2019年度
電力消費によるもの	0.48kg-CO ₂ /kWh	212,052	166,211	156,667
灯油によるもの	2.49kg-CO ₂ /L	599	149	0
ガソリンによるもの	2.32kg-CO ₂ /L	136,894	122,140	104,278
合計		349,545	288,500	260,945

環境への負荷		単位	2017年度	2018年度	2019年度
② 一般廃棄物の排出量		トン	21.6	21.6	20.7
③ 産業廃棄物の排出量 廃棄物最終処分量	中間処理廃棄物	トン	10.7	10.0	10.6
	最終処分量		1.1	0.7	0.8
④ 水道(上水)使用量		m ³	592	558	500
⑤ 化学物質の適正管理	指定数量倍数	倍数	0.192	0.186	189
	化学物質状況確認	回	12	12	12
⑥ 省エネ型製品設計製造	QCD活動回数	回	0.192	0.186	189

4.環境負荷 目標と実績

② 2019年度目標実績対比 および達成状況

環境への負荷		単位	目標	実績	対前年比	達成	
① 二酸化炭素 排出原単位	電力消費によるもの	kg-CO ₂ ÷千万円	298.2	219.7	73.7%	○	
	化石燃料消費に よるもの		灯油	0.4	0.0	0.0%	○
			ガソリン	207.5	146.3	70.5%	○
	排出合計の原単位		506.1	366.0	72.3%	○	
基準となる売上高		千万円	679	713			

<参考> 二酸化炭素排出量 (排出量の単位 …… kg-CO₂)

項目	排出計数	目標	実績	対前年比
排出量合計	0.480	285,864	260,945	91.3%

環境への負荷		単位	目標	実績	対前年比	達成
② 一般廃棄物の排出量		トン	21.6	20.7	95.8%	○
③ 産業廃棄物の排出量 廃棄物最終処分量	中間処理廃棄物	トン	9.9	10.6	107.5%	×
	最終処分量		1.0	0.8	81.1%	○
④ 水道（上水）使用量		m ³	530	500	94.3%	○
⑤ 化学物質の適正管理	指定数量倍数	倍数	0.2未満	0.189	—	○
	化学物質状況確認	回	12	12	—	○
⑥ 省工ネ型製品設計製造	QCD活動回数	回	12	12	—	○

4.環境負荷 目標と実績

1) 2018年度からの変化点

項目	詳細
売上高の上昇	対前年比で売上高が伸長した。+34千万円
2S活動を推進	1階工場、2階倉庫および4F事務室で大規模な2S活動を推進。

2) 2019年度環境活動計画

項目	活動計画	
二酸化炭素 排出原単位 削減	電力	太陽光発電活用・空調稼働温度の適正化
	灯油	灯油購入・使用量の抑制（前年並み）
	ガソリン	移動コスト削減（東海理化本社に事務所スペース確保）
一般廃棄物排出量維持抑制	古紙再資源化推進	
産業廃棄物排出抑制	混合廃棄物のリサイクル推進	
節水	節水意識の啓蒙・手洗い水流量管理	
化学物質の適正管理	化学物質の最大保管量指定・定期見直し	
省エネ型製品設計製造	技術関連会議でのOCD活動による顧客要望の充実	

3) 評価と要因分析

環境への負荷		対前年	達成	要因
① 二酸化炭素 排出原単位	電力	73.7%	○	LED照明導入・暖冬による暖房使用減
	灯油	0.0%	○	暖冬のためスポット暖房未使用
	ガソリン	70.5%	○	営業車 HV配車の最適化
② 一般廃棄物排出量		95.8%	○	古紙分別徹底による可燃ごみ減
③ 産業廃棄物 排出量	中間処理廃棄物	107.5%	×	2S推進による混合廃棄物増加
	最終処分量	81.1%	○	リサイクル率の高い中間処理業者選定
④ 水道（上水）使用量		94.3%	○	手洗水量調整が奏功・節水意識向上
⑤ 化学物質 適正管理	指定数量倍数	—	○	化学物質数量管理が適切に 実施されている
	化学物質状況確認	—	○	
⑥ 省エネ型製品設計製造 QCD活動回数		—	○	QCD活動の適切な推進による

4) 是正

(1) 産業廃棄物：中間処理廃棄物量の目標・実績不適合

要因	実施直前に大規模な2S活動が決定し、目標策定・修正に間に合わず。
是正	2020年度計画時 廃棄物増加要因を策定前に問い合わせ計画に織り込む。

4.環境負荷 目標と実績

1) 全社目標

環境への負荷		単位	目標	活動詳細
① 二酸化炭素 排出原単位	電力消費によるもの		243.6	LED導入効果 室温パトロール推進
	化石燃料消費に よるもの	灯油	0.0	灯油ストーブ廃止
		ガソリン	187.6	HV車の活用
	排出合計原単位		431.2	—
基準となる売上高		千万円	680	
二酸化炭素総排出量	(排出計数0.480)	kg-CO2	293,193	
② 一般廃棄物の排出量		トン	20.0	古紙分別の推進
③ 産業廃棄物の排出量 廃棄物最終処分量	中間処理廃棄物	トン	9.76	混合廃棄物 リサイクル推進
	最終処分量		0.7	廃棄物削減による 処分量の減少
④ 水道(上水)使用量		m ³	530	手洗水栓管理と 節水啓蒙活動
⑤ 化学物質の適正管理	指定数量倍数	倍数	0.2未満	定期的な保管量 見直し
	化学物質状況確認	回	12	現場チェックおよび 数量管理
⑥ 省エネ型製品設計製造	QCD活動回数	回	12	技術製造部門による 全体・個別検討会議

4.環境負荷 目標と実績

2) 本社 目標

環境への負荷			単位	目標
① 二酸化炭素 排出原単位	電力消費によるもの		kg-CO ₂ ÷千万円	243.6
	化石燃料消費に よるもの	灯油		0.0
		ガソリン		187.6
	排出合計の原単位			431.2
基準となる売上高			千万円	680
二酸化炭素総排出量	(排出計数0.480)	kg-CO ₂	279,224	
② 一般廃棄物の排出量			トン	18.8
③ 産業廃棄物の排出量 廃棄物最終処分量	中間処理廃棄物	トン	9.76	
	最終処分量		0.7	
④ 水道(上水)使用量			m ³	530
⑤ 化学物質の適正管理	指定数量倍数	倍数	0.2未満	
	化学物質状況確認	回	12	
⑥ 省エネ型製品設計製造	QCD活動回数	回	12	

3) 音羽事務所 目標

環境への負荷		単位	目標
① 二酸化炭素排出原単位	ガソリン		144.0
基準となる売上高		千万円	97
二酸化炭素総排出量	(排出計数0.480)	kg-CO ₂	13,969
② 一般廃棄物の排出量		トン	1.2

5.環境経営活動計画

項目		活動計画
二酸化炭素 排出原単位削減	電力	LED照明導入（事務棟）・室温パトロール継続実施
	灯油	灯油ストーブ（スポット暖房）の廃止・電熱ヒーターへの切り替え
	ガソリン	東海理化本社に事務所スペース確保(移動コスト削減) 利用距離に応じたHV車輛配車（HV活用最適化）
一般廃棄物排出量維持抑制		古紙リサイクル活動の推進（リサイクル排出種類増 など）
産業廃棄物排出抑制		混合廃棄物のリサイクル推進 他 廃棄物のリサイクル化検討（廃プラスチック資源化）
節水		節水意識の啓蒙・手洗水流量の定期見直し
化学物質の適正管理		化学物質 仕入（保管）量の上限設定および定期棚卸。 管理状況にもとづく上限数量の見なおし（2回/年）
省エネ型製品設計製造		技術関連会議でのOCD活動による顧客要望の充実

6.中期目標

中期目標（2023年度まで）

環境への負荷		単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
① 二酸化炭素 排出原単位	電力	kg-CO ₂ ÷千万円	243.6	235.9	229.5	223.4
	ガソ リン		187.6	183.6	178.7	173.9
	排出合計		431.2	419.5	408.2	397.3
基準売上高		千万円	680	692	704	716
二酸化炭素 総排出量	排出計数 0.480	kg-CO ₂	293,193	290,261	287,358	284,485
② 一般廃棄物の排出量		トン	(20.0)	3.0	3.0	3.0
③ 産業廃棄物の 排出量 廃棄物 最終処分量	中間処理 廃棄物	トン	9.76	9.66	9.57	9.47
	埋立 廃棄物		0.0	0.0	0.0	0.0
	最終 処分量		0.7	0.7	0.7	0.7
④ 水道（上水）使用量		m ³	530	530	530	530
⑤ 化学物質 適正管理	指定数量 倍数	倍数	0.2未満	0.2未満	0.2未満	0.2未満
	化学物質 状況確認	回	12	12	12	12
⑥ 省エネ型製品 設計製造	QCD 活動回数	回	12	12	12	12

7.環境改善事例

番号	取り組み	写真	実施内容
1	事業所照明LED化推進および照明プルスイッチ導入による節電活動		<ul style="list-style-type: none"> 本社3階のすべての照明を蛍光灯からLEDに転換しました。LED切り替えによる節電効果が期待できます。 本社1階組立室および2F倉庫照明をプルスイッチ式に交換。使用箇所のみ点灯させることで電気エネルギーの最適利用を推進します。
2	空調運転の最適化		<ul style="list-style-type: none"> 一日2回、事業場の室温および空調の設定温度を確認。夏季室温28℃・冬季室温20℃になるよう調整しています。
3	汐入干潟清掃活動への参加		<p>豊橋市主催の「汐入干潟クリーンアップ大作戦」に昨年に引き続き参加。三河湾奥部にのこる干潟に流れ着くプラスチック等のごみを清掃しました。</p>

8.法規・法令順守状況

I.主な法規・法令順守状況

法規・法令		判定	状況
騒音規制法	騒音規制基準の順守	○	騒音状況：全時間帯で規制値内
振動規制法	振動規制基準の順守	○	振動状況：全時間帯で規制値内
フロン排出抑制法	管理第一種特定製品の簡易点検及び専門点検	○	保守業者による年次点検および簡易点検（外観検査）実施
	一定規模以上の管理第一種特定製品の定期点検	○	保守業者による年次点検実施
	管理第一種特定製品の点検及び整備に係る記録等に関する事項	○	製品毎に点検記録簿整備 点検時毎、点検記録記載
浄化槽法	浄化槽の保守点検及び清掃	○	清掃（年一回）2019年 点検（年4回）実施
	法定検査の受検	○	2019年10月受検
廃棄物処理法	廃棄物管理および処理委託関連	○	法逸脱なし。 周辺住民からの苦情なし。
	マニフェスト交付一覧提出	○	遵守している。
労働安全衛生法	判断基準の遵守	○	遵守している。
省エネ法	判断基準の遵守	○	遵守している。
消防法	規制基準の遵守	○	遵守している。
PRTR法	規制基準の遵守	○	遵守している。
毒物及び劇物取締法	規制基準の遵守	○	遵守している。
豊橋市市条例	法律からの上乗せ条項遵守	○	遵守している。
愛知県条例	法律からの上乗せ条項遵守	○	遵守している。

なお、上記法令・法規に関し関連する各機関から指摘をうけたことは3年間なかった。

II.外部からの苦情の受付状況

活動期間における周辺住民および外部機関からの苦情はなかった。

9.代表者による全体評価と見直し

2019年度は前年度に引き続きエコアクション21の「2017年版ガイドライン」が適用され、経営における課題とチャンスとを認識した環境経営目標に基づき活動を進めてまいりました。

I.全体評価

①環境負荷低減

電力・エネルギーについては工場増築等の効果により工場稼働が増加しましたが、2S活動や労働環境の改善等により稼働効率が上昇し、CO2原単位では目標をクリアしました。

廃棄物排出量については、一般廃棄物では古紙・ダンボールの分別徹底により一般廃棄物は減少いたしました。

産業廃棄物は2S活動の推進や事業所効率化活動に伴い、混合廃棄物を中心に総廃棄量が増加した影響で目標未達となりました。

水道利用につきましては手洗い水の流量適正化および啓発活動が奏功し目標をクリアしました。

化学物質管理につきましては保管状況の定期的な確認や仕入・保管数量の見直しを実施し、指定数量倍数の目標を維持しております。

②顧客要望対応

「経営における課題とチャンス」で認識した「顧客要望対応」につきましては、技術・製造部門の全体会合から各受注案件に関する個別打ち合わせに至るまで、顧客要望に基づいた省力化・省エネルギー化の検討を実施することで、顧客満足度の向上に努めております。

③法規・法令順守

環境法令違反や環境ヒヤリハットはなく、また、近隣住民や周辺企業、行政からの環境に関する苦情の発生はありませんでした。

II.見直しと総括

2019年度の環境活動につきましては概ね目標達成いたしました。しかしながら、産業廃棄物の排出量総量は目標未達となりました。これは事業場の2S活動など生産効率化活動による一時的な増加ですが、混合廃棄物のリサイクル率向上活動を推進し、翌年度以降の排出量削減につなげたいと思います。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により景況が大きく減速する予測となっております。当社といたしましては省エネルギー活動等を通じ、経営資源の最適な運用を行い、顧客要望に全力で対応することで顧客満足度を向上させることで景気影響を極力減少させたく活動してまいります。

2020年 5月 25日

株式会社 サン電材社

代表取締役 松橋 貞行